



● 本日の例会 2019 年 11 月 8 日 通算 1548 回 本年度 第 18 回
クラブ協議会： ①「クラブ財政について」 ②「会員増強について」

● 第 1547 回 例会報告 / 2019 年 11 月 1 日
出席報告：会員 46 名 / 出席 32 名 欠席 14 名
卓話： ドイツ（ハンブルク） 国際大会報告



親睦活動委員会：（藤井（万）サブリーダー）

11/5 に火曜会を開催いたします。テーマは「食欲の秋、おすすめレストランとマイブーム」です。よろしくお申し込みをお願いします。



11月 1日 14 件 28,000 円 累計 500,500 円
多額の寄付を有難うございました。（敬称略）

土屋東一/藤井宏章/熊本誠司/石井謙次/西澤民夫/河邊幸夫/大日方真/入沢頼二/岩上義明/大谷啓子/鈴木康介/穂苅裕久/永滋康/吉岡琢磨

指名委員長より報告（岩上義明 委員長）

クラブ細則第 5 条第 1 節によると 12 月第 1 週の例会日に年次総会を開催して、次年度理事・役員の選挙を行うことになっております。

また、クラブ細則第 3 条第 1 節には、「選挙の 1 カ月前に、会員は、会長、副会長、幹事、会計、空席となっている理事の候補者を立てる。指名委員会または会員のいずれか一方または双方が、候補者を立てることができる」と規定されています。そして、クラブ細則第 3 条第 6 節には、「本クラブは、役員及び理事の指名のための一つの期間として指名委員会を設ける。指名委員会は会長より指定された委員により構成される。」と規定されております。会長より、本年度指名委員会には、岩上義明委員長、石井謙次氏、小林博茂氏、土屋東一氏、熊本誠司氏が努めました。12 月 6 日（金）例会にて年次総会を開催いたします。本日指名した候補者以外の指名がなければ、指名委員会が指名した候補者が当選となります。

指名委員会は、次年度（2020～2021 年度）理事・役員候補を次の通り指名致します。

役員（会長ノミニー）/ 役員（副会長）

2021～2022 年度会長 河邊 幸夫

役員（幹事） テイエリ・コンシニ

役員（会計） 藤本 亮

理事 / 藤井 宏章・中森 真紀子・奥野 敦・西澤民夫

福田 栄二・谷口 友保・岩城 賢珠・坂口紘平

今 後 の 予 定	日 付	開始時間 終了時間	場 所	事 項	内 容
	11 月 15 日	12:30 13:30	赤坂インターシティ 405	移 動 例 会	卓話：イニシエーションスピーチ 出川 敬司 氏
	11 月 22 日	12:30 13:30	37F アリエス ANA インターコンチネンタルホテル東京	例 会	卓話：公益財団法人 日本バスケットボール 協会 会長 /サイファ 代表取締役 / 筑波スポーツ科学研究所 副所長 元バレーボール全日本代表選手 三屋 裕子 氏
	11 月 29 日		休 会		
	12 月 6 日	12:30 13:30	37F アリエス ANA インターコンチネンタルホテル東京	例 会	クラブ総会

私は9月12日から24日まで、われわれの地区の仲間であるグアム、チューク、ポンペイ、サイパン、ミクロネシア連邦共和国の9ロータリーを公式訪問してきました。日本列島には北海道から沖縄まで34の地区がありますが、日本語と異なる言語で生活する仲間を持っているのは当2750地区だけです。彼らは国際奉仕を中心に、地域の子どもたちに手を差し伸べていました。

第一次世界大戦前にスペイン、ドイツが統治した後、第一次世界大戦に日本が勝利すると日本が統治するようになったのですが、日本はスペインやドイツが派遣した倍の人たちを派遣し、ミクロネシアの発展を願って生活基盤向上のために頑張っていたことを知り、やはり日本人の力はすごいなと改めて感じました。また、それがきちんと現在まで踏襲されていることに対して尊崇の念を抱きました。

マローニー会長をお迎えして

8月6日、マローニー国際ロータリー(RI)会長ご夫妻が東京にお越しになりました。会長が最初に選んだ海外出張先が日本ということになります。歓迎晩餐会で「なぜ日本を選ばれたのですか」と聞くと、「東日本大震災から8年たつけれども、どういう復興をしてきたのか、敬愛する日本のロータリアンはそれにどう関与してきたのかを自分の目で確かめたかった」とおっしゃっていました。

マローニー会長は「ロータリーは世界をつなぐ」というテーマで世界中を飛び回っているのですが、私は「5000人の仲間をつなぐロータリー」を当地区のテーマとしました。7月中旬の統計では当地区に4787名の会員がいます。あと230人増強すれば、全国の地区の中でも1、2を争う人数になります。この地区には98ロータリーあるので、1クラブ当たり2.5人増強すればこの数字に届きます。ぜひ挑戦していただきたいと思います。

ジョージ・潔・東ヶ崎とポール・ラッシュ

ロータリーの発祥は、ポール・ハリス氏が1905年2月23日、4人の仲間とシカゴロータリーを創設したことにさかのぼります。当時、シカゴの街には反社会的勢力が跋扈し、銃弾が飛び交っていました。それで、この街を何とかするために、職業を通じてみんなの力を出し合おうと立ち上げたのです。

ハリス氏は1868(明治元)年生まれです。東京ロータリー初代会長の米山梅吉氏と同じ年です。洋の東西を問わず、国民が選んだ人たちが国を統治する時代に入った象徴的な年でした。そういう中で、日系1世がアメリカ合衆国に移民として渡りました。日本から出た初のRI会長であるジョージ・潔・東ヶ崎氏は、そのジュニアとして生まれました。日本とアメリカを結ぶビジネスマンとして活躍し、国際基督教大学を仲間とともに創設しました。それがロータリー平和センターのベースキャンプにもなっています。清里にある清里農村センター(後の清泉寮)は、民主主義を知らない青少年たちの育成と、アメリカの農業や畜産を日本の高地でできることを実証することを目的に設立されましたが、これは東ヶ崎氏のチームの発想であると伝わっています。

東ヶ崎氏は「PARTICIPATE! (参加し、実行しよう)」というテーマでRIをリードしました。その活動を支えたのがポール・ラッシュ氏でした。1923(大正12)年の関東大震災後、日本のプロテスタントグループを立て直すために来日し、1941(昭和16)年の真珠湾攻撃の1カ月後まで滞在してネットワークを広げ、日本人の思考回路を習得していききました。

戦後、GHQのマッカーサー元帥は、大陸の政治手法が異なる国がアメリカに対して敵対行為をする可能性は十分あるので、早急に日本の立て直しを図るためにポール・ラッシュのネットワークと情報を欲しがり、彼を少佐としてGHQに招きました。彼は駐英大使、中国大使を長年務めた吉田茂と親友になり、事あるごとにお互いの情報を持ってミーティングを開きました。

一方、東ヶ崎は、アメリカで生まれ育った純粋な日本人が英語しか話せないことを懸念し、自分の子どもたちを日本へ留学させました。ところが、日本人学生とどうしてもなじみません。そこで、アメリカで大人気のアメリカンフットボールを教えることにしたのです。

さて、戦争が終わり、戦時中に日本にいたアメリカ将兵と日本人女性との間に生まれた子どもたちは、生活に困りました。そのとき、沢田美貴さんという女性がエリザベスサンダースホームを設立しました。沢田さんは三菱財閥の本体である岩崎家から、外務事務次官だった沢田家に嫁ぎ、財閥解体の憂き目に遭いながらも、こうした子どもたちをどうしようかと考えたのです。チーム東ヶ崎の支援により、子どもたちを1700人育てたという記録があります。

一方、清里農村センターには、貧しい日本人を豊かにしようというテーマで大勢の農民が集まりましたが、彼らは病气から逃れることができませんでした。そこで、築地の聖路加国際病院に依頼し、毎日100人の農民たちが診察を受けに来たそうです。

コロンバスロータリーの週報によると、ポール・ラッシュは、「日本は貧しい国だけれども、素晴らしい民族性、気概を持っている。アメリカにとって大事な友人だ」とアメリカで説いて回り、お金をはじめいろいろな協力を求めました。しかし、アメリカの寄付がなかなか集まらないので、10カ月間アメリカに滞在し、ジャージーの雌牛やホルスタイン、アマリロロータリークラブから贈られたヘレフォード牛を日本に積み出しました。

ラッシュは「吉田総理は日本の大親友の一人であり、1948年以来、たびたび二人だけで会っていた。そういうベースがあって、1951年のサンフランシスコ講和条約にこぎ着けることができた。日本はこういう方法で立て直すので、どうか昔の戦争をした日本を忘れてください」と言っています。そして、49カ国が日本を新たな国家として承認してくれました。ラッシュは1979年に82歳で亡くなりました。

近年のロータリー

東日本大震災での「トモダチ作戦」については、日本人の多くがその詳細を知りませんが、発災3日後には2万4000人の将兵がロナルド・レーガン号に乗って、厚木基地を拠点に支援してくれました。膨大な量の水と食料を供給し、トラクターで道をきれいにし、仙台空港を離着陸できるようにしました。今では毎年3月11日を中心に、「トモダチボウル」が開催され、日本の学生と厚木基地内の学生たちがアメフトの親善試合を行い、トモダチ作戦への感謝の気持ちを伝えています。

日本人で2人目のRI会長は、向笠廣次さんです。彼は九州大学医学部を卒業した精神科のドクターで、国際ロータリー受諾演説で「Mankind is One、人類はひとつの家族です。だから、握手をしましょう」と言ったことで有名です。現在、埼玉県八潮ロータリークラブで活躍しておられます。

3人目は田中作次さんです。7月25日にホテルニューオータニで行われた、ロータリー財団の会員を増やす会合で、「私はロータリーに本当に世話になった。今まで1億3000万円を寄付してきたが、まだまだ足りないから、生涯を通じてロータリーに寄付し続ける」と言われ、私は大興奮して握手を求めました。今日は、日本から出た3人のRI会長の活躍についてお話ししました。